

緊急生産調整推進対策の計画的な推進を図ろう。
直播栽培等新技術の導入と地域特性を活かした米づくりを進めよう！
あ、おいしい。

平成11年度

ロゴ貼り付け

稲作情報

中通り版

第6号

平成11年8月27日

「ふくしま新世紀農業・農村確立運動」県推進本部

発行：福島の米 稲作情報編集会議

編集：福島県農業試験場

東北地方1ヶ月予報（8月20日仙台管区気象台発表）

8月28日～9月3日：天気は周期的に変化するでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

9月4日～9月17日：天気は周期的に変化するでしょう。日本海側では低気圧や前線の影響で、天気のぐずつく時期があるでしょう。平均気温は高い見込みです。

生育状況

1) 作柄解析試験の稲の生育：出穂期は、幼穂形成期以降高温で経過したことから平年より1～3日早まり、穂揃いも良好である。本場では、ひとめぼれの穂数が平年並となり、 m^2 当たり粒数が平年並に確保されるが、コシヒカリでは穂数がやや少なく、 m^2 当たり粒数がやや少ないと見込まれる。冷害試験地では、一穂粒数がやや少なく、 m^2 当たり粒数が平年より少ないとと思われる。登熟の進度は、出穂期以降の高温により平年より進んでいる。

2) 現地の稲の生育：出穂期は、平年より3～4日早まった。穂数は、ほぼ平年並に確保したが、一穂粒数がやや少なく、 m^2 当たり粒数は平年並からやや少ないと見込まれる。

3) 今後の生育予測：成熟期は、出穂期以降高温で経過していることから平年より早くなるものと思われる。積算気温から見た成熟期は、平坦部の初星、ひとめぼれが9月12日～15日頃、コシヒカリが10月1日頃、高冷地の初星が9月23日頃と予想される。

表1 作況試験の生育状況

場所	品種	出穂期 (月日)	穂数 (本/ m^2)	一穂粒数 (粒)	m^2 当たり粒数 (×100粒)
本場	初星	8.3(-1)	461(108)	69.2(117)	319(113)
	ひとめぼれ	8.5(-2)	491(101)	59.4(98)	292(100)
	コシヒカリ	8.14(-2)	394(92)	73.8(100)	291(94)
冷害試験地	まいひめ	8.21(-2)	467(95)	79.5(91)	371(87)
	初星	8.7(-3)	549(101)	56.5(86)	310(87)

注：()内の数字は平年比または差、出穂期以外は未確定値

移植栽培の当面する技術ポイント

■ 早期落水の防止、適期刈取りと丁寧な乾燥調製で品質向上に努めよう！ ■

1) 水管理

早期落水は、着色米と胴割米を増加させ、品質の低下を招くので避ける。落水の時期は、初星、ひとめぼれが出穂後30日、コシヒカリが出穂後35日を目安とする。落水までの水管理は間断灌漑を継続し、登熟促進とほ場の固化に努める。

2) 適期刈取り

各品種の刈取り開始期は、初星、ひとめぼれでは積算気温900～950、コシヒカリでは1000～1050を参考にして決定する（表2）。穂の黄化状況から見た刈取りの適期は、一穂の中で10～20%程度帯緑粒が残っている時期である。

3) 収穫・乾燥

(1) 部分的に倒伏が認められる場合は、刈り分けを実施する。

(2) 収穫した生粒を放置すると変質米が発生するので、刈取り後直ちに乾燥機に搬入する。適期に収穫された生粒は、高水分の粒が含まれているため、ほ場での堆積時間を極力短くするとともに、粒の乾燥ムラを無くすため二段乾燥を実施する。

(3) 大規模共同乾燥調製施設を積極的に活用し、利用率向上と品質の向上に努める。

4) 粉搗・調製

粉搗は肌ずれ防止のため、穀温を常温まで下げてから行う。調製は、1.85mm以上の網目を用いて丁寧に行い、食味、整粒歩合の向上を図るために、選別機の能力に合わせた処理量を守る。

5) 次年度への対策

土壤診断を活用しながら、ほ場に合った地力増強対策を実施する。

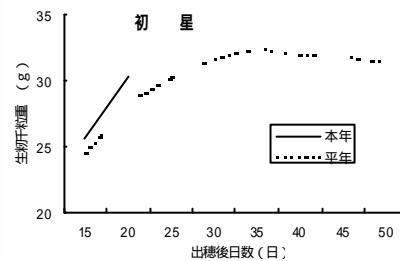


図1 生穀千粒重の推移（作柄解析試験 郡山）

技術ポイントの基礎データ等

表2 出穂日別積算気温到達日の予測(月日)

場所	積算気温	出穂日					
		7.31	8. 4	8. 8	8.12	8.16	8.20
900	9. 5	9.10	9.16	9.22	9.28	10. 4	
950	9. 7	9.13	9.19	9.25	10. 1	10. 8	
1000	9.10	9.15	9.21	9.28	10. 4	10.11	
1050	9.12	9.18	9.24	10. 1	10. 7	10.15	
1100	9.15	9.21	9.27	10. 4	10.10	10.18	
1150	9.17	9.24	9.30	10. 7	10.14	10.22	
猪苗代	900	9. 8	9.14	9.20	9.27	10. 3	10.11
	950	9.11	9.17	9.23	9.30	10. 7	10.15
	1000	9.14	9.20	9.27	10. 4	10.11	10.20
	1050	9.17	9.23	9.30	10. 8	10.15	10.25

注)8月22日まで本年値 23日以降平年値を積算

直播栽培の技術ポイント

倒伏防止に向けたほ場の固化と玄米品質の向上に努めよう!

A 湛水直播

1) 生育の状況

出穂期は、昨年より3~4日早まり、移植と比較して3~8日程度の遅れとなった。生育は概ね良好であり、穂いもちやイネツトムシの発生も少ない。

2) 当面の技術対策

(1)間断灌漑を実施して、登熟を進めながらほ場の固化に努める。落水の時期は移植栽培に準じる。

(2)刈取り開始期の目安とする積算気温は移植栽培より概ね100前後多めとするが、刈取り時期はほ場の平均的な成熟程度を示す粉の黄化状況をよく観察して判定する。ほ場内の生育差が著しい場合や部分的に倒伏したほ場は、刈り分けを実施する。

(3)粉水分のばらつきが移植栽培よりも大きいので、乾燥初期の送風温度を低めに設定するとともに、二段乾燥を実施して、乾燥ムラや胴割米の発生を防止する。

3) 次年度への対策

次年度直播栽培を予定しているほ場は、できる限り均平化をはかるとともに、出芽時の土壤還元を抑制するため、刈取り終了後早めにほ場内の藁を土壤改良資材とともに鋤き込んで腐熟させるか、搬出して堆肥化する。

B 乾田直播

1) 生育の状況

出穂期は、昨年より3~4日早まり、移植と比較して1週間程度の遅れとなった。生育は概ね良好であり、穂いもちやイネツトムシの発生も少ない。

2) 当面の技術対策

(1)水管理は、間断灌漑を継続して、品質低下につながる早期の落水は行わない。

(2)刈取り時期の判定および乾燥法については、湛水直播栽培に準じる。

3) 次年度への対策

次年度乾田直播栽培を実施するほ場は、均平化作業を実施するとともに、播種時の碎土率を確保するために秋耕を実施する。

技術ポイントの基礎データ等

表3 湛水直播稲の出穂期(月日)

品種	年次	播種期 (月日)	幼穂形 (月日)	出穂期		成熟期 (月日)
				成始期 (月日)	成終期 (月日)	
ひとめぼれ	1999	5. 7	7.23	8.13	(10. 1)	
	1998	5. 8	7.23	8.18	10. 8	
	1997	5. 9	7.24	8.14	10. 1	
	1996	5.10	7.24	8.17	10.10	
コシヒカリ	1999	5. 7	7.27	8.17	(10. 10)	
	1998	5. 8	7.30	8.24	10.12	
	1997	5. 9	7.29	8.22	10.13	
	1996	5.10	7.28	8.21	10.18	

(郡山 作柄解析試験)

表4 乾田直播稲の出穂期(月日)

品種	年次	播種期 (月日)	幼穂形 (月日)	出穂期		成熟期 (月日)
				成始期 (月日)	成終期 (月日)	
ひとめぼれ	1999	4.23	7.24	8.12	(9.30)	
	1998	4.22	7.27	8.20	10. 2	
	1997	4.23	7.23	8.14	10. 5	
	1996	4.25	7.27	8.20	10.11	
コシヒカリ	1999	4.23	7.27	8.19	(10.13)	
	1998	4.22	7.29	8.23	10. 8	
	1997	4.23	7.28	8.21	10.16	
	1996	4.25	7.28	8.21	10.16	

(郡山 作柄解析試験)

大豆栽培の技術ポイント

(1)干ばつを受けると、着莢数の減少・子実肥大の低下となるため、適宜灌水を実施する。

(2)着莢期以降の追肥効果は少なく、また干ばつ時に追肥を行うと干害を増長するので時期を逃した追肥は行わない。

(3)着莢期になり、カメムシ・サヤタマバエ等の被害が発生するので、十分に防除を行う。